

米国カリフォルニア州の核果類が終了へ モモとスモモは順調

FreshPlaza 2023年9月11日

カリフォルニア州の核果類は、一部で終盤に差し掛かっている。プリマワオナ (Prima Wawona) 社のマウリン・オ・ヒメネスカストロ最高商務責任者は、「黄肉のネクタリンの収穫は9月中旬までに終了する。白肉のモモはもう1週間あり、白肉のネクタリンは既に終了した。スモモの収穫は9月末まで、モモは10月末まで続く」と言う。

今シーズンは出荷のスタートが遅かったが、終了のタイミングは大部分で追いついた。しかし、シーズン中に別の課題が発生した。それは先月のハリケーンヒラリーである。ヒメネスカストロ氏は、「ハリケーンは収量の面で果実に影響を与えたが、幸いなことに晩生のモモの出荷計画は問題ない。なお、春には寒い天候もあり果実の収量に影響を与えたため、業界としての出荷量は期待どおりではなかった」と言い、業界全体の出荷量は約15～20%減少し、また有機栽培は慣行栽培よりも大きな影響を受けたと述べた。

今シーズンの価格設定は強含み 需要については、特に今年これまで南部の州と中部の産地からの果実が不足していたため、堅調に推移している。ヒメネスカストロ氏は、「出回り量が少なく需要が高いため、昨年よりも高い価格を設定することができた」と述べ、シーズンの残りの期間を通じて価格が堅調に推移する可能性が高いと指摘する。同氏はさらに、「我々は、価格を高く保つことを支援してくれるよう、主要な取引先と協議している。その理由の1つは、生産者がより良い農場価格を獲得するのを助けることである」と話す。

今後、同社のモモの販売は来月末まで順調と見られる。同氏は、「レイバーデー(労働者の日 今年9月4日)の後、核果類の宣伝を行う良い機会はまだある。夏が終わってもモモは終わらないので、シーズンを延長する絶好の機会である」と付言する。

執筆者: アストリッド・ヴァン・デン・ブローク

意見 欧州の包装規制は無用 - アジアは無頓着

FreshPlaza 2023年9月12日

EU全体でプラスチック廃棄物の増加に対処する法律と政策を強化する中、ILIP社(イタリアの梱包資材会社)の青果物包装輸出担当販売部長であるマウロ・スティパ氏は、欧州のそれはやり過ぎだと考えている。同氏は香港で開催されたアジア果実展覧会(Asia Fruit Logistica)を訪問し、アジア太平洋地域の経済がいかにか驚くべき成長を示しているかを共有した。その上で同氏は、「大量のプラスチック!」について報告している。

プラスチックの付加価値 同氏は「電子商取引の発達もあり、生産者は小売業者の価格に文句を言わない。また、再生ポリエステル(RPET)の包装には付加価値があり、アジア市場では欧州の様に『悪魔扱い』されることはない。異常な天候に対処するため、アジアの消費者は青果物が(大陸間をも)輸送されることを必要としている。国内の青果物だけでは、アジア諸国の巨大な需要を満たせない」と言う。(以下「」は同氏の発言)

「消費者は内容物を重視するため、パッケージに『執着』することはない。アジア果実会議(Asiafruit Congress)の中でニールセンIQアジア社(調査会社)が共有したように、購買行動は、競争力のある価格、衛生と品質の保証、健康意識、そして最下位の事項として環境への配慮に依存する。これにより、再生プラスチック...またはリサイクルされないプラスチック包装に最適のシナリオとなっている。」

プラスチックへの罰則による青果物セクターへの嫌がらせ 「これがアジア太平洋諸国の(成功した)ビジネスモデルであるとすれば、なぜEUの政治家はすでに苦しんでいるセクターに『嫌がらせ』を続けるのか?」とスティパ氏は疑問を呈する。「欧州では、プラスチックに対する税金と制限が社会に課せられるが、アジアでは汚染した個人を罰する。たとえば、シンガポールで喫煙すれば投獄される恐れがある。また、欧州がプラスチックを禁止するとしても、アジア、アフリカ、南米では数百万トンが使用されており、欧州の業者の競争力が低下して、これらのダイナミックで積極的な新興国を利することになる。」

パゴダ(中国の果実小売り業者)などの優れたビジネスの信条は「今すぐ購入/今すぐ配達」だと同氏は例を挙げる。「誤った認識や無用の制限を排除し始めなければ、我々の販売網はそのような巨人と競争したり、自らを防御したりすることはできない。」